

【対話形式の問題】（難易度：中）

下の文は世界史の授業で「近世ヨーロッパ世界の展開」を説明している様子を抜粋してまとめたものです。あなた自身がこの授業を受けている生徒だと思って、文中の□に適する語句を考えて漢字で答え、（ ）には適する語句を語群から記号で答えなさい。

先生 「コロナの流行で今までの生活が一変しようとしています。今日からしばらくの間、14世紀に流行した黒死病（ペスト）のあと、15世紀後半からヨーロッパがあらゆる面で近現代の世界に直接つながる新しい動きを示すようになったことを一緒に学んでいきたいと思います。この時代を近世、あるいは初期近代と呼び、おおよそ18世紀後半まで続きます。」

生徒A 「先生、“大航海時代”とも呼ぶこともあるのですよね。」

先生 「そうです。それでは世界の一体化が始まったとされる“大航海時代”とは何かというところから始めましょう。」

先生 「ヨーロッパでは十字軍以来、豊かなアジアの富や文化に対する関心が強まりました。特にマルコ=ポーロの旅行記『□ A □』は当時広く読まれ、東方への興味をかきたてました。」

生徒B 「金と香辛料」

先生 「そうそう。それから「国土回復運動」のなかで（ 1 ）教徒と戦ってきたポルトガルやスペインでは、キリスト教を世界に布教しようとする意欲も強かったのです。」

生徒B 「エンリケ航海王子やヴァスコ=ダ=ガマの活躍でポルトガルはアジア貿易の覇権を握っていったのですね。」

先生 「その結果、ポルトガルの首都（ 2 ）は一時世界貿易の中心地となりました。」

生徒C 「先生、スペインはどうだったのですか。」

先生 「ポルトガルに遅れたスペインは1492年、女王（ 3 ）がコロンブスの船団をインドに向けて派遣しました。その後、アメリゴ=ヴェスプッチはコロンブスが到着した土地はアジアとは別の大陸であることを明らかにしました。」

生徒D 「先生、アメリカだ。」

先生 「そうなのですね。このアメリカ大陸には先住民による諸国家が形成されていましたが、いわゆる征服者（コンキスタドール）によってアステカ王国やインカ帝国が滅ぼされ、征服者たちの残虐な植民地経営で先住民の人口は激減しました。先住民に代わり労働力としてアフリカから黒人が強制的に連れてこられ、主にプランテーションや鉱山で奴隷として使役されました。その数は1000万から2000万人に達するとされ、アフリカの社会や経済の発展が阻害されたのです。」

生徒A 「アメリカの人種差別問題のルーツですね。」

生徒C 「人種差別は黒人だけじゃないし、アメリカだけの問題ではないよね。」

生徒B 「世界の一体化とも関係があるみたいね。」

先生 「ウーン、差別問題は古くて新しくて未来につながるとても難しい問題だし、絶対避けてはいけない重要な問題ですね。近代、現代の歴史をもっと学びながら考えましょう。大航海時代の到来とともにヨーロッパ商業は世界的広がりをもつようになり、ヨーロッパにおける遠隔地貿易の地中海から大西洋に移動しました。このヨーロッパの貿易構造の変化を□ B □革命と言います。」

先生 「また、ラテンアメリカの銀山から大量の銀がヨーロッパに流入し、ヨーロッパの物価は2～3

倍に上昇しました。この物価騰貴は **C** 革命と呼ばれ、金利低下により商工業が盛んになり西ヨーロッパの国々は活発な経済的先進地域になりましたが、ヨーロッパ有数の大富豪のフッガー一家などが没落し、固定の貨幣地代で生活する領主層も衰退してゆき、社会に大きな変化がうまれてきたのです。」

- 生徒A 「この2つの出来事によって、ヨーロッパだけではなく世界が大きく変わっていったのですね。」
- 先生 「いわゆる世界の一体化が始まったのです。さて、もう一つヨーロッパを大きく変えた出来事が始まりました。ルネサンスです。」
- 生徒C 「ミケランジェロやレオナルド=ダ=ヴィンチですね。」
- 先生 「ルネサンスを代表する人物ですね。ルネサンスは中世ヨーロッパの教会中心の価値観から、個人の尊厳を重んじる人間中心の価値観を模索する文化運動でした。」
- 先生 「このルネサンスは近現代につながる文化の出発という側面と中世の文化の継承・発展という側面もあり、神学的要素や不合理な要素を残していました。天動説が教会によって支持され、ポーランドの天文学者（ 4 ）は地動説を理論化しましたが、教会の反発は大変激しかったのです。」
- 生徒D 「確かに太陽が東からのぼり、西に沈む姿を中世のヨーロッパ人も毎日見ているのだから、地球が動いているとは考えられないものね。」
- 生徒E 「地球が宇宙の不動の中心であるとする考え方は、『旧約聖書』の中の〔はじめに神は天と地をつくられた〕という記述と関係があるのかな。」
- 生徒C 「カトリック教会の権威を高めるためには、天動説の方が都合良かったということか。」
- 生徒E 「しかし、だんだんとカトリック教会の世界観が全てなのだということに疑問が生まれてきたということだね。」
- 先生 「カトリック教会への批判は14世紀頃からみられましたが、1517年ドイツのマルティン=ルターは贖宥状の悪弊を攻撃する九十五カ条の論題を発表し、宗教改革を開始しました。」
- 生徒A 「教皇を批判するということは当時としては大変なことだったのだろうね。」
- 生徒B 「今だって付度という言葉が普通に使われているのだから、当時は本当に命がけの主張だったのでしょう。」
- 先生 「教皇から破門されたルターは、神聖ローマ皇帝（ 5 ）にヴォルムスの帝国議会に呼び出されましたが、自説を撤回しませんでした。この結果、ルターは帝国追放処分となり、ルター派の信仰も禁止されたのです。ザクセン選帝侯にかくまわれたルターは新約聖書のドイツ語訳を完成し、民衆は直接キリストの教えに接することができるようになりました。」
- 先生 「ルターの説に影響を受けたミュンツァーは 不自由な身分である **D** 制の廃止、共有社会の実現などの社会改革思想に結び付け、ドイツ農民戦争を指導しました。」
- 生徒B 「ルターは農民の味方にはならなかったのでしょうか。」
- 先生 「しかし、その結果、ルターの教えを採用した神聖ローマ帝国内の諸侯たちはカトリック教会の権威から離れ、自領内の教会に対する支配権を確立することができるようになりました。」
- 先生 「スイスではルターの影響を受けて、フランス人のカルヴァンがジュネーヴで宗教と政治の改革にのりだしました。カルヴァンは、魂が救われるかどうかは、あらかじめ神によって決定されているという **E** 説を説きました。」
- 先生 「このカルヴァンの教説を信奉する宗派をカルヴァン派と言いますが、カルヴァン派は16世紀後半にはフランス・ネーデルラント・スコットランド・イングランドにも広まり、ルター派と並んで、もはや無視できないキリスト教の宗派となり、新教（プロテスタント）という言葉がうまれました。次の授業ではこの宗教改革の進展に対抗してカトリック教会がどのようなうご

きをとろうとしたのか。カトリック教会や神聖ローマ帝国がもっていた普遍的権威の動揺がヨーロッパ諸国に与えた影響と近代国家の原型の誕生の様子を学習しようと思います。」

生徒D 「いろいろなことが複雑に結びついて歴史が形成されていくんだな。」

先生 「そうなのですね。そこに気がついてもらえるのが、先生はとってもうれしいです。では、終わります。」

語群

あ カール5世	い フェリペ2世	う メアリ1世	え イサベル
お レオ10世	か フィレンツェ	き マドリード	く リスボン
け イスラーム	こ ユダヤ	さ トスカネリ	し ガリレイ
す コペルニクス			

解答

A	B	C
世界の記述 (東方見聞録)	商業	価格
D	E	1
農奴	予定	け
2	3	4
く	え	す
5		
あ		

各2×10

20点